

ここは、書きなおします。
(まとめ直します)

open関数のモード一覧

以下、取り敢えずの追記です！

`r` が省略できないパターンについて：

rb (バイナリ読み取り)
r+b (バイナリ読み書き)
r+ (テキスト読み書き)

- mode における r と t は、デフォルトである（指定が無い時）
 - つまり、r + t は、明記されていない場合が多い
 - また、キーワード引数でも位置があつていれば省略できるので、mode は、ほとんど省略されている

r·w·a·x t·b + (各文字ごとに確認)

- r
 - 読み込み（ファイルが無ければ失敗する）
 - w
 - 書き込み（既存の内容は削除し上書きする / 無ければ新規作成する）
 - a
 - 追記の書き込み（既存の内容に追加する / 無ければ新規作成する）
 - x
 - 排他的な生成に開き、ファイルが存在する場合は失敗する
-

- t
 - テキスト
 - b
 - バイナリ
-

- +
 - 読み書き対応
 - ~~r·w·a·x~~ に付けられ、それらの特性を引き継ぐ ↓ まとめ直します
↑ と思いや、実際にコードで確かめると、そんなに単純ではないようだ！
ただ、この問題が出ても、他の人が理解できれば消去法で答は分かると思います。
対処できない場合もあり得るが、そこまで難しい問題が出るのだろうか？AIも間違えていたし。
-

補足事項

- この組み合わせで、16通りのモードがあることになる（"wt" と "w" などは、同じmodeです）
 - 【r/w/a/x】 × 【t/b】 × 【+あり/+無し】 (4 × 2 × 2)
- 文字の並びは寛容であるが、慣習的な順序（アクセスモード、+、ファイルタイプの順）はある
 - 例 1 : "r+b"
 - 例 2 : "x+b"